

「2024 県展」の審査結果及び入選作品展について

県展は、兵庫県の芸術文化の振興に資することを目的に、日頃から美術作品の制作活動に励んでいる方を対象とした公募展です。1962年（昭和37年）から開催され、今回で61回目の開催となります。

2024 県展は、絵画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインの6部門に、合計583点の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品201点、そのうち「県展大賞」などの入賞作54点が決定しました。

つきましては、入選作品展を下記のとおり開催します。

記

1 主催

兵庫県、兵庫県立美術館、神戸新聞社、公益財団法人兵庫県芸術文化協会

2 会期等

- (1) 会期 令和6年8月3日（土）～8月17日（土）
- (2) 休館日 8月5日（月）、13日（火）
- (3) 開館時間 午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）
最終日の8月17日（土）は午後2時で閉展
(入場は午後1時30分まで)

3 会場

兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー 本館2階 大展示室

4 観覧料

無料

2024県展 審査結果について

1 応募及び入選作品数一覧

部門	応募点数			入選点数		左のうち入賞点数							
	本年度応募点数	2023年比増減数	全体に占める割合(%)	本年度	%	特席	一席	二席	三席	四席	佳作	奨励賞	入賞数
絵画	184	△ 38	31.6%	65	35.3%		1	1	1	1	5	1	10
彫刻・立体	28	8	4.8%	10	35.7%	1	1	1	1	1	2		7
工芸	43	10	7.4%	15	34.9%		1	1	1	1	4	1	9
書	77	△ 10	13.2%	26	33.8%		1	1	1	1	5	1	10
写真	216	2	37.0%	73	33.8%		1	1	1	1	5	1	10
デザイン	35	14	6.0%	12	34.3%		1	1	1	1	3	1	8
計	583	△ 14	100.0%	201	34.5%	1	6	6	6	6	24	5	54

特席	県展大賞	副賞50万円
一席	部門大賞(知事賞)	副賞10万円
二席	兵庫県立美術館賞	副賞7万円
三席	神戸新聞社賞	副賞記念品
四席	(財)兵庫県芸術文化協会賞	副賞記念品
佳作		副賞記念品
奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞	副賞5万円及び記念品
特別賞	県民賞(来場者の投票による)	副賞記念品

※特席(県展大賞)及び特別賞(県民賞)は全部門を通じて各1名、奨励賞((公財)伊藤文化財団賞)は各部門1名

※県展大賞の副賞50万円については、部門大賞の10万円を含む

2 年齢別応募者数一覧

部門	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
絵画	10	18	10	14	17	115	184
彫刻・立体	7	3	2	4	2	10	28
工芸	0	6	0	8	4	25	43
書	12	12	2	8	12	31	77
写真	30	5	2	4	12	163	216
デザイン	8	1	3	7	4	12	35
計	67	45	19	45	51	356	583
(%)	11.5%	7.7%	3.3%	7.7%	8.7%	61.1%	
2023年比	87.0%	160.7%	86.4%	125.0%	115.9%	91.0%	97.5%

3 地域別応募者数一覧

部門	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	他府県	計
絵画	79	22	17	16	6	19	3	5	5	4	8	184
彫刻・立体	16	1	1	1	1	3	0	0	1	2	2	28
工芸	12	5	3	9	5	1	2	0	2	1	3	43
書	31	7	2	5	3	19	7	0	1	1	1	77
写真	112	20	14	11	24	8	12	1	7	3	4	216
デザイン	14	4	5	3	0	5	1	2	0	0	1	35
計	264	59	42	45	39	55	25	8	16	11	19	583
(%)	45.3%	10.1%	7.2%	7.7%	6.7%	9.4%	4.3%	1.4%	2.7%	1.9%	3.3%	
2023年比	107.3%	88.1%	102.4%	73.8%	83.0%	87.3%	86.2%	133.3%	106.7%	110.0%	146.2%	97.5%

絵画部門（応募数184、入選数65）

部門	賞	作品名	名前	居住地
絵画	一席	部門大賞（知事賞） 音楽に乾杯	河野 光昭	姫路市
絵画	二席	兵庫県立美術館賞 それでも彼女はきれいと言った	臼杵 寿子	神戸市兵庫区
絵画	三席	神戸新聞社賞 芽吹	波賀野 文子	西宮市
絵画	四席	(公財)兵庫県芸術文化協会賞 老いて朽ちゆく木々	三方 斎彦	加古川市
絵画	奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞 兄の結婚	宗行 里々子	神戸市灘区
絵画	佳作	梅ヶ枝湯 只今営業中	坪井 英樹	高砂市
絵画	佳作	琵琶湖360°	TakA	西宮市
絵画	佳作	南国の山道で	山田 茂喜	神戸市東灘区
絵画	佳作	猫とミュシャとシャボン玉	寶山 和久	赤穂市
絵画	佳作	光・陰・色による暗示	田中 大善	淡路市
絵画	入選	希望という名の光	宇野 邦義	神戸市西区
絵画	入選	太古への想い	川東 雅子	西宮市
絵画	入選	心奥 迷い	吉田 恵桜	神河町
絵画	入選	追想2024-こんな月夜には-	奥野 隆之	丹波市
絵画	入選	命より大切なもの	隱岐 陽子	姫路市
絵画	入選	温室Ⅲ	樋口 しげり	神戸市東灘区
絵画	入選	undercooled	下村 楽音	神戸市北区
絵画	入選	うつろいの輝～ダイヤモンド～	西村 智子	神戸市灘区
絵画	入選	奥処知らず	福田 秀行	加東市
絵画	入選	飛翔への歳月	松原 隆志	神戸市東灘区
絵画	入選	化身	Yucca	神戸市西区
絵画	入選	波の音がきこえる	椿野 聖梨	朝来市
絵画	入選	残暁	猪飼 大夢	加古川市
絵画	入選	map もう一つの未来	門脇 済美	神戸市垂水区
絵画	入選	Und mich ewig freun 喜びよいつも	山中 富美子	神戸市灘区
絵画	入選	懐古的な未来へ。	赤木 秀明	神戸市東灘区
絵画	入選	残雪	塚本 厚子	三田市
絵画	入選	手がでかい	石宮 千佐登	芦屋市
絵画	入選	ギャップ	橋本 泰樹	宝塚市
絵画	入選	白いページ	安田 賢二	川西市
絵画	入選	必ずある光	長尾 博昭	神戸市北区
絵画	入選	今年の情景 2024-4	永原 清史	神戸市中央区
絵画	入選	旅する朧月0	山本 俊喜	神戸市垂水区
絵画	入選	まどごしVII	山下 浩子	神戸市中央区
絵画	入選	地の譜	豊崎 洋子	明石市
絵画	入選	sweetie	勝間 日菜	神戸市垂水区
絵画	入選	結び	吉川 弥音	姫路市
絵画	入選	游	戸田 恵子	宝塚市
絵画	入選	マリンバの彼	桑野 由美子	太子町
絵画	入選	曲折	吉田 紋	神戸市東灘区
絵画	入選	永遠のひとつぶ	塩賀 史子	宝塚市
絵画	入選	ベッドに発生するかたまり	塩路 直哉	京都府京都市
絵画	入選	invisible	相良 みつよ	神戸市須磨区
絵画	入選	曇った春	倉谷 優羽	神戸市垂水区

部門	賞	作品名	名前	居住地
絵画	入選	雲外蒼天	真鍋 莉胡	豊岡市
絵画	入選	街 風趣	内田 ひなた	京都府京都市
絵画	入選	サンポルタ	吉川 義紀	姫路市
絵画	入選	留守番桜	太田 豊和	神戸市北区
絵画	入選	うねる向こうに	島野 陽子	南あわじ市
絵画	入選	賽の河原	中村 淳典	高砂市
絵画	入選	時の向こう側	立谷 知代	姫路市
絵画	入選	Advance	渋谷 健	加古川市
絵画	入選	ツリーハウス	丸橋 重美	西宮市
絵画	入選	風光る北野坂	清瀬 五郎	西宮市
絵画	入選	息をとめる	野渕 博	滋賀県大津市
絵画	入選	おしゃべりな4人	山本 雅代	神戸市西区
絵画	入選	雪景	大木 豊	丹波市
絵画	入選	家族	山禄 秀司	神戸市西区
絵画	入選	人とひとの間にあるもの	片山 保幸	洲本市
絵画	入選	存続	高井 八重子	神戸市須磨区
絵画	入選	帰郷	金丸 英子	三木市
絵画	入選	播磨灘	富士谷 淳	たつの市
絵画	入選	日づけのない記憶	高萩 典子	神戸市中央区
絵画	入選	思い出の人達	船越 和子	神戸市北区
絵画	入選	命あふれる	高田 全作	加古川市

彫刻・立体部門（応募数28、入選数10）

部門	賞	作品名	名前	居住地
彫刻・立体	特席 県展大賞	一席 部門大賞（知事賞）	虎龍決戦	小岩 芽生 市川町
彫刻・立体	二席 兵庫県立美術館賞	無題	増野 智紀 京都府京都市	
彫刻・立体	三席 神戸新聞社賞	持続とは	首野尾 裕美 神戸市西区	
彫刻・立体	四席 (公財)兵庫県芸術文化協会賞	K A E N じゅ	坂口 英幸 尼崎市	
彫刻・立体	佳作	耳の欠けたMR	吉良 幸弘 丹波市	
彫刻・立体	佳作	明日は	吉田 美鈴 神戸市中央区	
彫刻・立体	入選	摂理は揺れる#2	橋本 健治 神戸市東灘区	
彫刻・立体	入選	逃げろ	西岡 良和 岡山県岡山市	
彫刻・立体	入選	うかんるり	藤本 尚隆 西脇市	
彫刻・立体	入選	活躍するをんな	片山 保幸 洲本市	

工芸部門（応募数43、入選数15）

部門	賞	作品名	名前	居住地
工芸	一席 部門大賞（知事賞）	咲き誇るバラ（ダイアナ）	若松 真理子	加古川市
工芸	二席 兵庫県立美術館賞	桜	高見 けい子	明石市
工芸	三席 神戸新聞社賞	PON・PON・PON	河田 祐子	三田市
工芸	四席 (公財)兵庫県芸術文化協会賞	丹波布着尺手紡ぎ草木染手織	田中 萬里子	高砂市
工芸	奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞	六等星の遺物	三原 航大	神戸市東灘区
工芸	佳作	棟端飾瓦（阿吽の景）	池田 賢司	南あわじ市
工芸	佳作	満天の星屑	竹中 恭子	西宮市
工芸	佳作	morpheme	池田 欽一	加西市
工芸	佳作	月明かり幽玄	藤田 有里子	神戸市灘区
工芸	入選	素	西山 猛	芦屋市
工芸	入選	乾漆組皿 スート	多鹿 咲姫	小野市
工芸	入選	Our cushions	丹生 あさ	京都府京都市
工芸	入選	SABOTEN	北川 愛	西宮市
工芸	入選	シズカナまちびと	片岡 安子	たつの市
工芸	入選	いばしょ	目黒 広典	明石市

書部門（応募数77、入選数26）

部門	賞	作品名	名前	居住地
書	一席	部門大賞（知事賞） 大庭庫	萩原 聖逸	尼崎市
書	二席	兵庫県立美術館賞 秋風	森岡 郁恵	姫路市
書	三席	神戸新聞社賞 別韋川別業	宮本 華巡	相生市
書	四席	(公財)兵庫県芸術文化協会賞 隔斷紅塵	奥島 極浦	神戸市灘区
書	奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞 李夢陽詩	遠藤 広菜	神戸市垂水区
書	佳作	清詩	鶴原 さやか	神戸市灘区
書	佳作	李商隱詩	中園 丁景	神戸市兵庫区
書	佳作	前赤壁賦（全文）	山口 松蔭	西宮市
書	佳作	李夢陽詩	中井 紅蓮	姫路市
書	佳作	時鳥	小寺 佳美	宍粟市
書	入選	恭尋聖義	山崎 芳園	神戸市中央区
書	入選	虞美人草より	河邊 翠鈴	神戸市長田区
書	入選	佐羽淡斎詩	田中 煙雪	宝塚市
書	入選	薛文炳詩	勝瀬 樹	神戸市垂水区
書	入選	智舷詩	小野寺 柱	神戸市垂水区
書	入選	即事	福永 芳扇	加古川市
書	入選	鸞（らん）舞（ま）い蛇（へび）驚（おどろ）く	石川 無外	神戸市西区
書	入選	流々	大前 恵里子	神戸市長田区
書	入選	高青邱の詩	河野 清葉	神戸市北区
書	入選	李商隱詩	吉田 早葉	西宮市
書	入選	朝の原	西山 順子	加西市
書	入選	張説詩	杉村 陽香	姫路市
書	入選	孔徳紹詩	上林 青瞳	姫路市
書	入選	高適之詩	小谷 荷香	上郡町
書	入選	初雁	内波 薫	赤穂市
書	入選	地道敏樹	勝亦 岬舟	神戸市東灘区

写真部門（応募数216、入選数73）

部門	賞	作品名	名前	居住地
写真	一席 部門大賞（知事賞）	街角キャンバス	加島 光	姫路市
写真	二席 兵庫県立美術館賞	a wolf in sheep's clothing	西村 わかな	神戸市垂水区
写真	三席 神戸新聞社賞	オバアたちの市場	宮田 敏幸	西宮市
写真	四席 (公財)兵庫県芸術文化協会賞	a_mi_do	東雲 慧	芦屋市
写真	奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞	食い違い	丹羽 そよ花	神戸市東灘区
写真	佳作	カオス	井之上 修三	三木市
写真	佳作	渚に集う	秀平 恵子	神戸市垂水区
写真	佳作	変なおじさん	河村 成美	神戸市北区
写真	佳作	ソラ溶けるウミを見る	石宮 孝梅	芦屋市
写真	佳作	見世物	別府 真光	神戸市東灘区
写真	入選	Y氏のY字路 in dreams	Chris 園田	西脇市
写真	入選	ライフライン	鈴木 博	神戸市須磨区
写真	入選	風が見える	市嶋 久資	小野市
写真	入選	光闇	三上 健二郎	芦屋市
写真	入選	ハンサム三兄弟	平田 剛	神戸市灘区
写真	入選	白樺の印象	前田 康房	小野市
写真	入選	氷の芸術	片山 茂	西宮市
写真	入選	山茶花と	島津 貴充	宝塚市
写真	入選	路地裏の僕	小林 昌子	小野市
写真	入選	降臨	山本 安男	神戸市西区
写真	入選	風	遠藤 堅衛	神戸市須磨区
写真	入選	カンダタの夢	なかにし 宏明	伊丹市
写真	入選	雨上がり	行天 邦英	神戸市西区
写真	入選	建築アート	仙崎 幸子	神戸市中央区
写真	入選	祈り	都倉 重忠	加古川市
写真	入選	生命	山本 雅夫	神戸市長田区
写真	入選	入学の日	中永 ひとみ	神戸市西区
写真	入選	風の戯れ	塩月 仁	神戸市垂水区
写真	入選	春の公園一隅	三宅 美佐子	神戸市垂水区
写真	入選	April Dream	米村 環	三木市
写真	入選	蕩ける町	荒木 郁子	神戸市北区
写真	入選	幽玄	徳岡 千津子	西脇市
写真	入選	タッチ	藤原 秀	加東市
写真	入選	河川対岸の都市	西村 貴久世	神戸市中央区
写真	入選	密集	中村 日出夫	明石市
写真	入選	光の交差	清水 和義	三田市
写真	入選	キッシング フィッシュ	南 澄恵	神戸市灘区
写真	入選	時の流れに	木内 良之	神戸市中央区
写真	入選	十人十色	渡邊 陽介	神戸市垂水区
写真	入選	巨人のひとみ	大原 国男	西宮市
写真	入選	ユニーク	溝口 理香	西宮市
写真	入選	想起のとき	嵐 祥子	神戸市須磨区
写真	入選	孔雀咲く	浜名 俊宏	西宮市
写真	入選	24/7	岡田 妃桜里	神戸市垂水区
写真	入選	あの頃の記憶	日比 潤一	神戸市須磨区
写真	入選	居場所	中村 宣一	神戸市垂水区
写真	入選	サスペンス	山田 純一	神戸市北区
写真	入選	刻の流れ	濱川 初子	三木市

部門	賞	作品名	名前	居住地
写真	入選	大正ロマン	久下 亮介	丹波市
写真	入選	取り残されたもの	木幡 好誠	神戸市中央区
写真	入選	棄景	松場 鋼一	丹波市
写真	入選	巨躯に挑む	西山 重樹	神戸市東灘区
写真	入選	時を待つ	末廣 樹	神戸市須磨区
写真	入選	シャボン玉飛んだ	廣岡 敏正	神戸市垂水区
写真	入選	池・干上がる	谷 登志朗	姫路市
写真	入選	お茶目	増田 茂	西宮市
写真	入選	ダイナミック	高橋 文代	神戸市中央区
写真	入選	オブジェの森	川中 いづみ	大阪府大阪市
写真	入選	時空を超えて語りあう	松村 陽子	神戸市長田区
写真	入選	春爛漫	岡田 茂	神戸市北区
写真	入選	別れの刻	石川 信彦	神戸市須磨区
写真	入選	歴史の中へ	廣岡 卓樹	淡路市
写真	入選	バックパッカー	上村 隆夫	神戸市中央区
写真	入選	耐えて待つ路童	田中 宏	相生市
写真	入選	胞子のアート	納庄 喜一	三木市
写真	入選	割れ鏡の錦絵	上野 純子	神戸市西区
写真	入選	夏の丘	高貝 忠弘	神戸市灘区
写真	入選	寄生	細谷 昭二郎	丹波市
写真	入選	変貌	八代 佳子	神戸市垂水区
写真	入選	病む地球	馬場 和正	三田市
写真	入選	雨上る	伊藤 忠	神戸市中央区
写真	入選	憩いの場	岡本 美知子	三木市
写真	入選	面影	門 光廣	赤穂市

デザイン部門（応募数35、入選数12）

部門	賞	作品名	名前	居住地
デザイン 一席	部門大賞（知事賞）	新しい仏像つくろう会議（試案）	風呂本 和彦	神戸市灘区
デザイン 二席	兵庫県立美術館賞	出られなかったものたち	吉田 誉香	神戸市西区
デザイン 三席	神戸新聞社賞	やあ君たち、また会ったね	高井 八重子	神戸市須磨区
デザイン 四席	(公財)兵庫県芸術文化協会賞	県花 野路菊	栗本 賀世	伊丹市
デザイン 奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞	豊岡市立美術館－伊藤清永記念館－のためのポスター	湯口 叶望	豊岡市
デザイン 佳作		PAIN	亀井 常行	神戸市西区
デザイン 佳作		Wah Gwaan? ! -調子どう?!	五十嵐 隆	尼崎市
デザイン 佳作		UP TO US	吉田 まこ	大阪府高槻市
デザイン 入選		賞味期限	おぐら せつこ	神戸市東灘区
デザイン 入選		西神中央 Sky TAXI	原田 秀子	神戸市西区
デザイン 入選		アルビノ龍（執筆宣言ポスター）	TakA	西宮市
デザイン 入選		ほうれん草の下半身	濱田 隆史	神戸市灘区

絵画部門審査員＝奥村一郎、佐川晃司、森田りえ子**【総評】**

審査員が満場一致で推すといった作品はなかったが、出品者がそれぞれの日常を謳歌し、そこからアイデアを得て制作をしており、その中から率直に良い思われる作品を選んだところ、結果として多様な作品が含まれるよう感じられる結果となった。

【一席 部門大賞（知事賞）】

音楽をモチーフにしており、いろんな奏者が描かれ、見ていて楽しい。あたかも歌いながら制作したかのよう、出品者の年齢を感じさせない活力のある作品。ニスをふんだんに用いているため、画面が光ってしまったのは再考が必要か。

【二席 兵庫県立美術館賞】

タイトルから想像力が膨らませられる。波、煙、地球とおぼしき青い球体など、それ自体はあり当たりな様々なモチーフが描かれ、ストーリーがどのように展開されるのかを気にさせる。それぞれのモチーフをよりリアルに描ければいっそう表現に説得力が出るだろう。

【三席 神戸新聞社賞】

日本画。オオサンショウウオを上に寄せ、下に大きく空間を開ける大胆な構図で描いている。日本画の岩絵の具特有と思われるマットな質感がうまく表出されており、力強い表現となっている。周囲の黒い部分が画面全体の暗がりを演出している。

【四席 （公財）兵庫県芸術文化協会賞】

写真をベースに制作されたのか、クローズアップされたモザイクに彩色したような作品。背景の空の質感と手前のモチーフの質感がそれぞれ違って表現されているのが、かえって持ち味となっており、非常にインパクトの強い作品。

【奨励賞 （公財）伊藤文化財団賞】

絵の中の様々な部分に、実兄への愛情が感じられる。シャガールの作品に寄せて描かれており、技巧的な秀逸さは見られないものの、素直な感じが画面からあふれているよう。実兄にプレゼントすれば喜んでもらえるのではないか。

【総評】

若い世代を中心に応募数が増えたことは、大変喜ばしい。ただし一定のレベルに満たない作品も多く、残念である。せっかく応募するのであれば、ただ作りたいものを一般的なやり方で作るのではなく、もっと自分なりのこだわりを見せてほしい。自分の観点や筋が通っていれば、よりエネルギーや魂の伝わる作品となろう。

【一席 部門大賞（知事賞）】

一本造りの木彫で、若いパワー、エネルギーが感じられる作品。着彩も成功している。故事をテーマに、さまざまな物語を思わせる。ただしそこが弱さにもなりかねず、たとえば下の布や血の表現は少々説明的である。造形でどう語れるかを工夫することで、さらに表現が高まるだろう。まだまだ伸びしろの感じられる意欲作で、今後が楽しみである。

【二席 兵庫県立美術館賞】

鏡面の箱の、外側には見る我々が映り込み、内側を覗くとゴミがエンドレスに広がっている。ピシッと綺麗に作られ、意図が明確に伝わってくるが、内側のゴミまで綺麗に作りすぎた感もあるか。ゴミの量や種類を工夫し、「汚いけど綺麗」に見えれば、さらに良かったのでは。箱の鉢の位置などのディテールも、全体が綺麗であるだけに、やや惜しい。

【三席 神戸新聞社賞】

半跏思惟像という伝統的な仏像のかたちが、ペットボトルという素材の形状をうまく利用して再現されており、アイデアが光る作品。SDGs という深刻な問題が扱われているが、透明感のある素材で、重くなりすぎていないのが良い。

【四席 （公財）兵庫県芸術文化協会賞】

大きくふくらんだ頭髪の動きが造形的に面白い。金属の線材や、それを溶接する際に出るスラグも、うまく生かされている。物理的に若干不安定である点は要改善か。また空洞になっている目の表現については、他の選択肢もあったかもしれない。

【総評】

染織の作品が多く良いものがあった。焼き物（陶芸）は少なかった。

伝統的なものではなく意表をつく作品、発想力のある作品が多く楽しませてもらった。若い出品者が多いと思っていたが、熟練した仕事をする人が多数出品されており驚いた。（年配の出品者の作品は）いずれも若々しい感性が感じられる作品であった。日常の中でいろいろと考えながら頭の中で構想をふくらませ作品をつくっておられると想像される。発想の自由さが感じられ、年齢に関係なく、正面から時間をかけてじっくり取り組んでいる作品が多いことが印象深かった。

【一席 部門大賞（知事賞）】

はじめは材質が何かわからなかったが、木彫による作品で大変な作業をされている作品。工芸といいながら彫刻的要素があり工芸の中では珍しい。見たことのない形式だが、欄間のようにもみえる。全てが一体となっているのか一部貼り付けによるものかはわからないが、全体をシンプルな色で統一し、高い技術が感じられる。気品がある。バラというモチーフを、単なる美しさだけではなく生命力が漲る植物として表現している、エネルギーを感じさせる表現が魅力的だ。技術力が感じられ、立体的でバラの垣根のようにも見えてくる。あえて色をつけていないところもよい。

【二席 兵庫県立美術館賞】

背景が黒なので夜桜を表現しているのか。桜をモチーフとした作品は数多くあるが、本作は作者のやわらかい感性がそのまま出ている秀作。綴織りは表現が固くなりがちだが、本作はやわらかい表現が魅力的だ。細い幅の織を6枚継いでおり、下図をきっちりつくり計画的に仕事を進められており、時間をかけた丹念な仕事である。抽象的な感じもあり、絵画的な素養がそのまま生かされている。固い表現とならないところに技術の高さを感じる。

【三席 神戸新聞社賞】

一件縦縫（たてがすり）のように見えたが、よく見ると横糸にも色が入っており、縦横縫（たてよこがすり）の技法で作られているようだ。縫というのは一本の糸を織る前に染め分けてから織る技法だが、本作は図案を相当練って作った作品だと思う。縫は直線的な表現になりがちだが、柄に曲線的な要素も見られ、高い技術が感じられる。

【四席 （公財）兵庫県芸術文化協会賞】

丹波布、丹波木綿といって丹波地方に江戸時代から伝わっている伝統的織物である。一時途絶えかけた織物だが保存会で頑張っておられる。伝統工芸品かもしれない。丹波木綿の特徴は白い横糸が見えるのが特徴。真綿から糸を紡いで織られる。植物染料が使われている。丹波織はかなりの人が熱心に取り組んでいる織物であり、そのような人が伝統工芸展ではなく、県展にチャンレンジされたのは喜ばしい。

【奨励賞 （公財）伊藤文化財団賞】

廃墟のような建物に見えるがそれを樹脂で固めた若者らしいスタイルの作品。新しい素材を用いた工芸。水に沈んでいく都市を暗示しているようにも思え、そこから何か現代的なメッセージのようなものも感じられる。

【総評】

漢字・仮名・前衛・篆刻の中でも、本年は漢字が多く、仮名が少ない傾向にあった。審査においては、筆遣いと線質、古典に準拠しているかなどをみたが、書風や準拠した古典の時代はバラエティーに富み、個性が發揮されているように感じた。来年は書道王国の兵庫県として、仮名と前衛の点数が増加し、各ジャンルとも偏りない出品になることを期待している。

【一席 部門大賞（知事賞）】

五言古詩の漢詩を題材にした行草書の作品で、正攻法で洗練された優品。墨の潤渴・文字の大小・強弱、余白の変化などバランスよく、対比が明瞭で一つの空間に整然とまとまっている。表裏を使用した多面的な筆遣いができるおり、墨量も自然に調和している。行間がきれいですっきりとした爽やかな作品となった。

【二席 兵庫県立美術館賞】

仮名作品の中でも、白黒のバランスがはっきりとしていた。漢字に近い変体仮名を多めに用いて、細いながらも力強い線質をもってインパクトのある強い作品となった。散らし書きをするなかで行間の変化に富み、空間と余白が美しく効果的に配置され、流麗に全体がまとまっている。

【三席 神戸新聞社賞】

篆書の一つである古代文字の金文を素材に、現代風にアレンジした作品。墨の潤渴や運筆の遅速、点画の長短などを交えて、しなやかで動きのある作品となっている。へんとつくりの組み合わせ、時おり長く延伸する点画を交えるような工夫をしており、紙面に空間の変化を作り出している点が見どころだろう。

【四席 (公財) 兵庫県芸術文化協会賞】

白文印の篆刻作品。線の太さや点画の疎密が絶妙で、鋭くも柔らかさのある充実した作品となった。全体の構成は、画数の少ない上部をやや狭く、画数の多い下部を広くとり、下端に余白をもつて巧みに四字のバランスをとっている。小さな方寸の世界に大きな広がりを感じることができる作品であった。

【奨励賞 (公財) 伊藤文化財団賞】

明末清初の行草書の作風を目指した作品。腕の回転で動きや流れ、リズムを作り出し、墨量で重厚感と強さを生み出している。線はのびやかでおおらかであり、同時に筆が紙に食い込むように書かれた力強さがあり、躍動感にあふれた若いエネルギーを感じる作となった。

【総評】

目を引く作品が少なかった印象。肖像権の関係か人物を扱った作品も限られていた。また表わしたいモチーフに対して適切な画面の大きさや、フレーミング、マッティングなどをより精緻に検討した方が良いと思われる作品がいくつか見られた。一方で出品者がこれを撮りたい、と思えたテーマがきちんと捉えられている印象も受けた。

【一席 部門大賞（知事賞）】

構図や造形のセオリーに基づかず撮影していることが、かえって作品の良さにつながっている。一方で3点組の組作品として出品するに際して、黄色ー灰色ー緑の色彩の組み合わせやモチーフと画角のトリミングの妙を考慮したことなども見受けられる。

【二席 兵庫県立美術館賞】

動物の顔であることはわかるが、モチーフの重ね方が画面の三分割を考慮しつつ技巧的になされているため、人の目を引きつける効果がある。タイトルが秀逸で、画面とタイトルの相乗効果で魅力的な作品となっている。違うタイトルだと見方も変わる。

【三席 神戸新聞社賞】

被写体となる市場のおばちゃんとコミュニケーションを取りながら撮影したことがはっきり示されており、ドキュメント写真の原点を感じさせる。これがカラーだと雑然とした感じになっていたんだろうが、モノクロームで表わすことで、人物の表情に目がいく。4点組の組み合わせ方も良い。

【四席 (公財) 兵庫県芸術文化協会賞】

日常的なモチーフである網戸をクローズアップし、抽象的な作風に仕上げている。光の加減が良い。表装も非常に丁寧。惜しむらくは作品が小ぶりなので、これをもっと大画面に仕立て上げれば、いっそう効果的だっただろう。大きさが評価の分かれ目となる作品。

【奨励賞 (公財) 伊藤文化財団賞】

写り込みをストレートに撮影したもので、真ん中のモチーフが画面を二分割し正面向きの人物と横向きの人物との2枚の作品であるように見せるなど、非常にトリッキーな仕掛けが施されている。この作品ももっと大きければまた評価が変わったであろう。

【総評】

昨年度に比べ点数が増えたのみならず、力作ぞろいで多様性もあり、見ごたえのある作品が多かった。今年度よりコンセプト・シートを導入したことでの見えた目のインパクトなどに加え、作者の狙いと表現とがうまくマッチしているかがポイントのひとつとなり、デザイン部門によりふさわしいかたちで審査することができた。出品する側にとっても、デザインをやろうという意欲のある方の応募につながったのでは。

【一席 部門大賞（知事賞）】

力強く、完成度の高い作品。一見して目を引くインパクトの強さがあり、テーマや表現したいことが明確で、しかも破綻のないレイアウトでうまくまとめられている。何かを一方的に主張するのではなく「会議」の場を設定するという発想は、今の時代にふさわしい。作者がこれまで生きてきた人生も背景に感じさせる。

【二席 兵庫県立美術館賞】

一見かわいらしいモチーフだが、言葉にならなかったものというテーマは、コミュニケーションの課題という今の社会への鋭い問い合わせでもあり、そのバランスが面白い。色々な場面がひとつの画面にうまくおさめられているが、貼り付けた部分や、はみだしている部分の表現について、さらなる吟味があれば、より良かったのでは。

【三席 神戸新聞社賞】

個々のパーツが思いを込めて大変丁寧に作られており、近寄ってじっくり見たくなる作品。全体として、しっかりした色彩計画でうまくまとめられているものの、構成にはさらなる工夫の余地があったのでは。「移動販売用看板」というコンセプトが魅力的であるだけに、もう少し看板らしい強さがあっても良かったか。

【四席 （公財）兵庫県芸術文化協会賞】

金色の背景と、文字のレタリング、適度に概念化された花の描写というレイヤーがしっかりと破綻なくまとめられている。デザインとして優れており、すぐに実用的に使えるレベルの作品。レタリングの文字をひとひねりして、ドキッとするような、よりコンセプトの強い言葉をもってきても良かったのではないか。

【奨励賞 （公財）伊藤文化財団賞】

一枚の画面に向き合ってしっかりと丁寧に描かれており、強い思いが感じられる作品。地方の問題が叫ばれる中、高校生が県展というチャンスに、地元の美術館を取り上げ、このような作品にまとめあげたことが、素晴らしい。もっと極彩色の色を使うなど、さらに大胆な画面を作ろうとすれば、よりデザインが楽しくなるのでは。

2024 県展 特席 県展大賞 受賞作品



小岩 芽生 《虎龍決戦》

2024 県展 一席 部門大賞（知事賞） 受賞作品

【絵画部門】



河野 光昭 《音楽に乾杯》

【彫刻・立体部門】



小岩 芽生 《虎龍決戦》

【工芸部門】



若松 真理子 《咲き誇るバラ (ダイアナ)》

【デザイン部門】



風呂本 和彦
《新しい仏像つくりろう会議 (試案)》

【書部門】



萩原 聖逸 《大庭庫》

【写真部門】



加島 光 《街角キャンバス》